

<p>1 学校教育目標</p> <p>「伝統・文化を大切に、心豊かで、心身共にたくましい、東部っ子の育成」</p> <p>①自ら学ぶ子ども……夢を実現するために、基礎学力の定着を図り、自分の考えを持ち、自ら交流を愉しむ力を育む。</p> <p>②豊かに生きる子ども……豊富な郷土で、読書に親しみ、楽しむ心を育む。思いやりのある心・感動するを育む。</p> <p>③遠く生きる子ども……美しい自然の下、武道の精神を学ばせ、礼節ある郷土に誇りをもつ子どもを育む。</p>	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>【自ら学ぶ子ども・豊かに生きる子ども・遠く生きる子ども】</p> <p>① あらゆる場面で自信を持って自己表現できる確かな学力を身につけた児童を育てる。</p> <p>② 規律正しい生活・全校剣道を通して心身ともに充実した児童を育てる。</p> <p>③ 地域から信頼され、地域と連携した豊かな体験活動が充実した学校づくりを行う。</p>
--	--

3 目標・評価

① あらゆる場面で自信を持って自己表現できる確かな学力を身につけた児童を育てる。								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題	具体的な改善策・向上策
学校運営	教員の資質向上	授業力の向上	・自分の授業を振り返り、指導技能の向上に努める。 ・校内研究を通して学習過程の在り方を明確にする。 ・全員研究授業を1回以上行う。	教頭 研究主任 (江島)	・自分の授業を記録し、振り返ることで、自己研鑽を深める。 ・校内研究で全員授業を行い、事後の研究会の中で検証し、授業力を高める。 ・講師を招聘し、研究会を充実したものにする。 ・各種研修会への参加を奨励する。 ・全校スピーチにおける指導やプレゼンタイムを充実させ、技能の向上とともに意欲喚起を図る。 ・小学生新聞を購読したり、国語辞典を常時置いたり、「さらさら算数コーナー」を設置したりと、環境面で学びの刺激のサポートを講じる。	・全員が算数の研究授業を行い、講師を招聘した研究会で、指導法の改善について研修を深めることができた。 ・全校スピーチでは、聞き手・話し手の技術向上を意識して取り組めた。 ・三瀬小・北山校「自習小」目的をもって交流に臨み、自分の意見を堂々と書いていた。	・学習過程が定着し、児童のノートの書き方にも自分の考えを書けるような変化が見られた。 ・スピーチタイムやプレゼンタイムではいろいろな話題で意欲的に発表しようとする児童の姿が見られた。特にスピーチタイムでは、よりよいスピーチをするために、児童からポイントを押さえた感想やアドバイスの声などが多く出された。	・今年度は、模試授業について先進校視察や資料により研修を行うことができた。来年度は、模試授業における、授業の在り方(「わたり」/「わい」)について、変遷を通じた研究を進めていく必要がある。
教育活動	読書活動の推進	読書活動の推進	・児童の100冊以上(おすずめの本を含む)読書量を目指す。児童の達成率100%。 ・読書のジャンルを広げ、質の向上をめざす。	図書主任 図書司書 (江島・姉川)	・毎週月曜日に朝読書・読み語り(ボランティア)を実施する。 ・多読者の紹介(図書館だより)・表彰をする。 ・図書部祭り・各図書部系募集等を利用して全分類の図書が貸し出しができるような取り組みを行う。 ・学年に応じた「おすずめの本」を紹介し、読書の質の向上を図る。	・100冊読書の目標をほとんどの児童が達成できた。 ・ほっこりタイム、放送読み語り、図書委員によるおすずめの本の紹介などにより読書のジャンルが広がっている。	○昨年引き続きボランティアグループ「ひなたぼっこ」による読み語りやブックトーク、図書館司書による放送読み語り(給食時間)が行われ読書タイムが充実したものとされている。	○様々な読書案内を通して本に親しみ冊数・ジャンルや書名の記録などとして読書の足跡を残し、自分の読書生活を振り返りたい。
特定課題	小学校低学年の学習環境の改善	基本的な生活習慣・学習習慣の育成	・家庭学習の習慣化のために、家庭と連携して、生活・音読点検を徹底する。	低学年担任 (角)	・職員・児童に周知徹底し、授業・帰りの会等で全職員で指導し、あらゆる機会に「さすくさすはっさき」「はいと返事・すつと起立」の発声についての評価を行う。 ・音読カードを配布し、毎日点検し、表現力の向上を図る。 ・プレゼンタイムなど様々な発表の場を設け、意欲を持たせる。	・朝の会・帰りの会やふだんの授業で3点について指導していく中で、定着してきた。 ・音読カードを毎日点検したり、読書の習慣を定着させたりすることで、表現力が高まった。	・新年度は、1年生が入学してくるが、極少数での手立が「ひつよ」である。	
								○幼保小中連携

② 規律正しい生活・全校剣道を通して心身ともに充実した児童を育てる。								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題	具体的な改善策・向上策
学校運営	健康・体づくり	全校剣道の充実	・剣道を通して自分の体力づくりに関心をもたせ、進んで運動する態度を育てる。 ・剣道を通して礼儀正しい態度を身に着かせる。	剣道担当 (角)	・剣道ノートを利用して、自分の目標や稽古について振り返らせ、運動に対する意欲を高める。 ・生活の場で礼儀正しい態度で過ごせることを賞賛する。	・児童が意欲的に剣道の稽古に取り組むことができた。 ・本校で剣道で学ぶ意義を、日頃かかるとして意識付けを行った。 ・礼儀については、公の場での礼儀が身に着いてきた。	・児童が意欲的に剣道の稽古に取り組む。1年間やり通すことができた。 ・生活の面でも(月目標)と関連させながら、今後も普通の生活の場で指導をしていく必要がある。 「剣道を学ぶではなく、剣道で学ぶ。」	・剣道指導者の確保が課題である。
教育活動	道徳教育の推進	道徳教育の推進	・年1回以上、全学年でふれあい道徳の授業公開を行う。	道徳担当 (江島)	・生命尊重・家族愛を中心とした価値観を授業で実践し、よりよい生き方を保護者と一緒考えさせる。	○毎月の人権教室(給食で全職員行)や12月の人権集会(全校)を実施した。 ・心のアンケートにより児童の様子を把握したり、職員間で情報交換したりして支援や指導を行うことができた。	○毎月の人権教室(学期に1回ずつ校長、教頭、養護教諭も行う)に加え、各担任等の全校人権教室や平和学習・12月の人権集会(全校)を行うことができた。	・毎年、山村留学の児童が加わるため児童の生活環境が変化する。地元児童も衛生もお互いを思いやり、協力して楽しく学校生活を送れるよう担任はもちろん全職員で支援・指導にあたり人権教育の充実を図ってきたい。
教育活動	生徒指導	きめ細かな個別指導の充実	・生活の約束(3つのあ)活動の定着を図る。『3つのあ』を定着させている児童が100%。 ・基本的な行動様式の定着を図り、気になる子どもに対して全職員で支援する。 ・安全教育の指導の徹底を図る。	生徒指導 担当 (角)	・「あいさつ・あんげん・ありがとう」の活動ができた児童をスターシールなどを活用してほめる。全校の場でも紹介する。 ・生徒指導・教育相談連絡会を毎月開き、気になる子どもに対して、全職員共通理解の上で、きめ細かに対応する。 ・毎日の全校補りの会で、交通安全や防犯意識を高める指導を行う。	○毎月の人権教室(学期に1回ずつ校長、教頭、養護教諭も行う)に加え、各担任等の全校人権教室や平和学習・12月の人権集会(全校)を行うことができた。 ・心のアンケートにより児童の様子を把握したり、職員間で情報交換したりして支援や指導を行うことができた。	○職員室の会話の中で日常的に、児童の様子について話合いし、共通理解を深めることができた。 ○保護者や地域の方との会合の中でも学校の取り組みについて説明し、理解を求めた。 ○教育相談の専門的な連携機関との連携を図り、計画的に実施することにより、児童理解を深めることができた。	・今後さらに、地域・保護者の連携を深め、学校目標や指導方針の徹底を図ってきたい。

③ 地域から信頼され、地域と連携した豊かな体験活動が充実した学校づくりを行う。								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題	具体的な改善策・向上策
学校運営	学校経営方針	本年度の重点目標の周知	・教職員・児童・保護者の周知率を9割以上とする。	校長	・職員会議、全校集会等で説明する。 ・学校便り、山村留学総会・青年会総会などで周知し、具体的取り組みを説明する。 ・地域参加の各行事ごとに周知を図る。	・各会議等での説明を行うことができた。 ・保護者アンケート・職員アンケートの結果からおおむね周知されていることが見える。	○毎月保護者会等で学校目標や児童の様子について話し合い、学校経営方針について理解を深めていくことができた。	・学校便りを始め、学校行事への誘いや地域行事への参加などの機会に、周知・理解を求めている。地域の方への周知については十分とは言えない。さらに周知・理解を図ってきたい。
特定課題	○山村留学の継続・発展	山村留学の継続・発展	・保護者・地域と協力し山村留学の継続・発展ができる学校をめざす。	山村留学 担当 (教頭・江島)	・山村留学実行委員会と協力して、山村留学のできる学校としてのよさをアピールする。 ・地域に根ざした学校として様々な行事を地域の方と一体になって実施する。 ・校内研究ともリンクし、「総合的な学習の時間」等を活用し、地域行事を児童主体型で行う。	・年度当初に年間計画で計画していたことは、地域と協力し、無事に執り行うことができた。 ・来年度は高学年の長期留学希望者がなく、高学年留学の生業のための広報活動を積極的に行いたい。 ・行事の内容が伝統的で固定化したもの・地域の方の協力なしではできないものが多い。児童主体での活動は難しくしたが、その中でも、児童自身が地域の人と触れ合いながら活動することができた。	・重頼が減少する中、継続していくことの難しさを抱えているが、みんなで協力していくことを確認できた。また、里親制だけでなく、他の地域(常方式や家族式)も併用するよう体制を、実行委員会と相談しながら整えていく必要がある。	

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題	具体的な改善策・向上策
学校運営	教員の資質向上	教職員の服務規律の保持に対する意識向上	教職員の服務規律の保持に対する意識を向上する。	教頭	・職員会議や連絡会で、毎回服務規律について話題を提示し、職員の意識を高める。 ・通知文は、全員に配布し、必ず管理職より補足説明をする。 ・日常的に事案・事件、事故の情報提供を行う。	○職員会議・連絡会時に「職員の誓い」を唱和したり、通知文等の事例等を協議し合わせたりして服務規律の保持関係について話すことができた。 ・通知文については回覧し、必要に応じて印刷・配布して具体的に指導することができた。	○日常的な会話においても機会あるごとに服務規律の保持について話合いし、意識付けすることができた。 ○新聞記事等から関連記事について職員に情報提供を随時行い、意識を高めることができた。	・報告・連絡・相談について「これくらいは…」という意識から十分になっていくことができた。更に高い意識を持ってより指導していく必要がある。

4 本年度のまとめ・次年度の課題

良好に教育活動を推進できたと考え、地域密着型の学校ではあるが、「開かれた学校」という面では、ややアピール不足など課題が残る。総括すると下記のような成果と課題があげられる。

① **あらゆる場面で自己表現できる確かな学力を身につけた児童を育てる。**

・全職員が公開授業・授業研究会を行うことにより、児童に確かな学力をつけるための模範指導の研鑽を積むことができた。また、児童の言語活動や多様性を尊重した授業の構築を進めることができた。
・授業・全校スピーチ・交流学習等の場で、「いつでもどこでも」だれとでもを合い言葉に、常に自己表現を奨励させる活動を行うことができ、児童に力をつけることができた。
・年2回学期・学年末に行う井原山チャレンジ・個別の指導等を通して基礎的・基本的な学力の定着については一定の成果が見られた。しかし、活用力・応用力といった面では更に工夫が必要である。
・児童100冊以上の読書達成・ICTを活用した学習の推進、他の小学校との交流学習など学力向上のための取り組みを計画的に行うことができた。

② **規律正しい生活・全校剣道を通して心身ともに充実した児童を育てる。**

・保護者との連携は今年度も十分になされ、基本的な生活習慣の確立についての共通理解を得ることができた。
・全校児童が意欲的に剣道に取り組む。心身の成長を図ることができた。
・教育相談について計画的に外部から講師を招き研修を行うことができた。児童についての共通認識を持つことができ、全般的には職員による一致した指導を行うこともできた。しかし、個々の場面で指導については更に職員間の共通理解を図ることが必要である。

③ **地域から信頼され、地域と連携した豊かな体験活動が充実した学校づくりを行う。**

・地域連携について、今年度も生活科「総合的な学習の時間」を利用して児童が地域へ出かけて地域の良さを味わう活動を多く設定することができたことは一定評価できると考える。更に職員が積極的に地域へ働きかけるような取組について工夫していく必要がある。
・「総合的な学習の時間」の内容・ボランティア活動の内容等を見直し、児童のいない地区へも積極的に職員・児童が出かけ、連携を図ることがあまることができた。

④ **その他**

・職員および児童の危機意識については必ずしも高いとは言えない。様々な場面を想定した訓練の充実や研修だけでなく、常に危機意識を持つ行動を心がけていく必要がある。

◆ 学力向上のため、基礎的・基本的な面ではこれまでの方策を引き続き継続的に行っていく必要がある。活用力・応用力を育むためには何より授業の質を更に高めていく必要がある。来年度は、学年別模範指導の確立をめざした校内研究を進め、個々の授業について振り返り・検討・改善といったことについて職員相互が協力して取り組んでいきたい。

◆ 小学生新聞の活用など、今後も知識基盤社会に対応できるよう、社会常識や情報社会に明るい児童の育成に、より一層力をいれたい。

◆ 地元児童・山村留学が共に切磋琢磨して成長していくために、児童理解を更に細やかに、個々の場面においても共通した指導・支援が行われるように教育相談を進めていきたい。

◆ 「開かれた学校」を推進するため、山村留学育成会とのさらなる連携・協働による「地域密着型の学校」の良さや学校の教育活動について、校区内を中心としてアピールを積極的に行っていく。

◆ 地域連携については、これまでの取組に加え、地域人材での山村留学支援ボランティア人材バンクの洗い出しや体制づくり、さらに充実した活動を実施していきたい。地域の方々と児童・職員の交流について更に工夫していくことが求められる。